

【団体名】 公益財団法人スターダンサーズ・バレエ団

事業報告書

事業名	インクルーシブダンスプロジェクト We Ballet!
【計画時の事業内容】	【実施結果(成果)】
<p>障害者による芸術活動参加を促進することを目的に、川崎市内特別支援学校の知的障害を持つ若者を対象にスターダンサーズ・バレエ団が12月に上演するバレエ「くるみ割り人形」のエッセンスを用いたダンスレッスンをを行う。</p> <p>平成29年11月～平成30年2月で2～3回を予定 昭和音楽大学南校舎スタジオ</p> <p>対象： 川崎市内特別支援学校の知的障害を持つ若者（高等部生徒及び卒業生）</p> <p>レッスン内容： バレエの基礎である前半のバーレッスンと後半の表現・創作で構成される。これまでの経験や調査から、バレエの「同じことを何度も繰り返し練習する」という点が、障害を持つ人々の「できることを何度もやるのが得意であり、喜びを見出す」という特性にマッチすることが分かっている。前半のバーレッスンは毎度同じ内容を繰り返すことで、バレエのエッセンスを体験しながら自信につなげる。後半は、バレエをベースにしながらも子供たちの自由な発想や表現力を引き出すことを目指す。</p>	<p>【日時・場所】 第1回 11月26日(日)10:30～12:30 第2回 12月3日(日)10:30～12:30 昭和音楽大学南校舎6階スタジオ602</p> <p>【指導者】 主講師 鈴木稔(スターダンサーズ・バレエ団常任振付家) 補助講師 加地暢文(スターダンサーズ・バレエ団ダンサー) 酒井優(同上) 松本実湖(同上)</p> <p>教員ボランティア 3人</p> <p>【参加者】 計11人(申込受付数12人、内1人欠席) 麻生養護学校より5人(卒業生1人含む) 高津養護学校より3人 市立中央支援学校より3人</p> <p>【内容】 バレエの通常のレッスンをそのまま体験できる構成でありながら、視覚的にレッスンの流れを理解できるビジュアルスケジュールや、バレエ「くるみ割り人形」に登場する「ねずみ」「兵隊」のイラストを使用し、わかりやすさにこだわった。また、動きの大小や強弱に合わせたピアノ伴奏をつけることで、身体を動かすことの楽しさを伝えることに重点を置いた。</p> <p>* 特別プログラム 舞台稽古見学会 スターダンサーズ・バレエ団「くるみ割り人形」公演の舞台稽古見学会に参加者を招待し、参加者6人、保護者4人の計10名が参加した。弊財団が計画するリラクスパフォーマンス(知的障害やADHDの症状のある方など舞台鑑賞が困難な方のためにアレンジされた公演形態)実施に向けてのアンケートを行った。</p>

【事業の実施効果】	【実際の効果と課題】
<p>① 参加者への効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 舞踊や芸術文化一般への興味関心の増長、参加意欲の向上 ■ 感情表現、自信・自己肯定感の醸成 ■ 卒業後も継続できる趣味へと発展、文化的により豊かな生活の実現 <p>② 社会への効果(2020年以降を見据えて)</p> <p>就労や教育が優先される障害者の社会参加のテーマの中で、後回しにされがちな「文化芸術・エンターテインメント」への参加を促進することで、障害の有無に関わらず芸術活動に参加できるインクルーシブな社会の素地醸成に繋げる。今後、さらにプログラムを発展的に継続することで、社会のインクルージョンの流れをより強固なものにすることが期待できる。</p>	<p>① 参加者への効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 舞踊や芸術文化一般への興味関心の増長、参加意欲の向上、卒業後も継続できる趣味へと発展 <p>より長い期間での実施を希望する声や次回開催を望む声は多く、バレエという芸術形態に対する興味をもってくれたことが確認できた。</p> <p>また、参加した11人のうち7人は昨年度行った同プログラムからのリピーター参加者で、またの開催を心待ちにしていたと保護者の方々から聞かれた。バレエが参加者にとって楽しく取り組める活動のひとつとして定着しているのではないかと。</p> <p>② 社会への効果</p> <p>目に見える形での効果が表れるのはまだ先になるが、障害のある人の参加が特に限られているバレエにおいて、このようなアウトリーチ活動を地道に続けていくことは、彼らの社会参加を促し、それが長期的には障害者に対する社会の見方をも変えていくことになると考えている。</p> <p>「くろみ割り人形」舞台稽古見学会終了後に行ったアンケートからは、障害があっても楽しめるバレエ公演に対する需要があることを確認でき、また、リラクスパフォーマンス実施に向けて貴重な意見を聞くことができた。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 継続的なプログラム実施の必要性 <p>初めての参加者にとっては、馴染み始める前にプログラムが終わってしまい、リピーター参加者に比べると十分な効果が得られなかったように思われる。</p> <p>また、参加を募る上でも、ある程度の実施回数を確保してある方が、多くの参加者が見込めると考えられる。</p> <p>次回実施の際には、少なくとも5回のレッスン回数は確保し、体験レッスン日を設けるなどしてより参加しやすい環境づくりに努めたい。</p>